



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
大分県議会・県民クラブ
守永 信幸
〒870-0022
大分市大手町3-1-1
TEL 097-506-5088
FAX 097-538-0136

『安心、元気、未来創造』 新たな大分県長期総合計画の策定を

大分県議会第4回定例会では、新たな大分県長期総合計画策定の進捗状況について報告がありました。現在の長期総合計画は2024年度末で終期を迎えます。そこで「安心、活力、発展」の大分県づくりを継承しながら、時代の要請や潮流の変化にしっかりと対応し、大分県を新たなステージへと発展させる総合計画として策定するとの佐藤知事の説明でした。2024年度を初年度にし2033年度までの10年間を計画期間として策定作業を行い、2024年第3回定例会県議会（9月議会）で成案として示されます。この長期総合計画で、佐藤知事が私たち県民の意見をどの様に受け止めているのか、タクトを振って創ろうとする大分県像は、私たちの暮らしに笑顔をもたらすものとなっていくのか、皆様もしっかりと注意を払って頂きたいと思えます。

時代の要請・潮流の変化

現行計画によって獲得した成果や課題を踏まえ、実績を上げてきた取組を継承しつつ、新たな視点で対応を検討すべき時代の要請・潮流の変化として以下の6点を指摘しています。①多様性を認め合い共生・共創する社会への要請、②想定を上回るスピードで進む人口減少、③地球環境問題の深刻化と自然災害の脅威、④新興感染症対策と社会経済活動の両立、⑤産業を取り巻く環境の劇的な変化、⑥デジタル社会の進展と加速する先端技術の活用。これらの変化にどの様に対処すべきか、県民の皆さんと対話し一人一人の声を政策の原点として活かしていく方針を掲げています。

基本目標とスケジュール

今回示された基本目標は、①誰もが**安心して元気に**活躍できる大分県、②知恵と努力が**報われ未来を創造**できる大分県。この「安心」、「元気」、「未来創造」の分野を設定し、19の政策を進める施策として57の施策が考えられています。

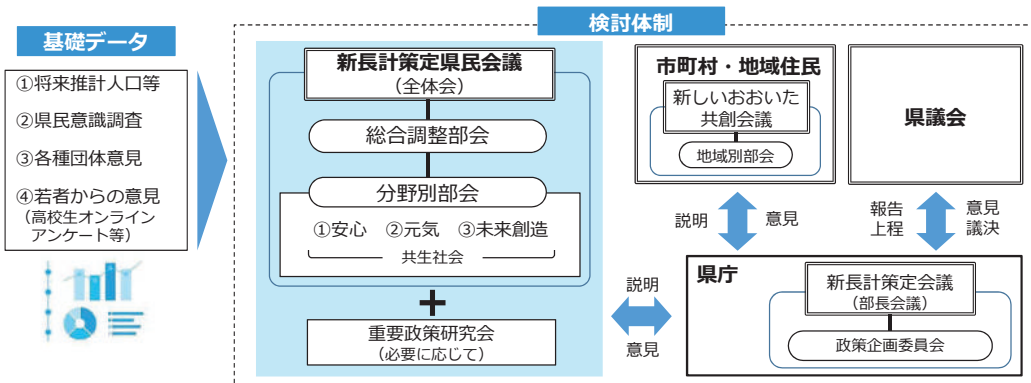
具体的には、これからの議論となる訳ですが、大分県が示す情報にご留意頂きたいと思えます。また、気になる課題があれば、いつでもご連絡下さい。



新たな長期総合計画の策定

○現行計画「安心・活力・発展プラン2015」の計画期間はR6年度まで
○時代の潮流を踏まえ、多くの県民の声を反映させた新たな長期総合計画を策定

R6年度中の策定を目指す



スケジュール（見込）

R5					R6									
7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
◆①県民会議（全体会）					県民会議（総合調整部会、分野別部会（各4回を予定））					◆②県民会議（全体会）				
▼①共創会議					▼共創会議（地域別部会） （振興局単位で実施）					▼②共創会議				
●第2回定例会 （体制・スケジュール）					●第4回定例会 （報告議案（概要・骨子））					●第1回定例会 （案々案）				
										●第2回定例会 （案案）				
										●第3回定例会 （計画案上程）				

※『もりちゃん通信』は、読み終えたら、資源ごみの回収時にお出し下さい。

『共生社会おおいた』・『選ばれるおおいた』

～政策・施策体系（案）の主なポイント～

1頁で触れた新たな大分県長期総合計画の目標分野ごとの見直し方針について、以下に箇条書きでお示しします。更に具体的な内容をお知りになりたい方は、大分県のホームページで「大分県新長期総合計画」と検索して頂ければ、各部会等での議事概要を見ることが出来ます。

これらの政策・施策の達成によって、ブランドアイデンティティーの強化が図られ、「共生社会おおいた」や「選ばれるおおいた」が実現できる計画に仕上げるといふものです。

「安心」分野

- ・自然災害が頻発・激甚化する中、安心の大前提となる「災害対策」を先頭に位置づけ。
- ・「自然災害」と「地球温暖化」は密接に関連するため、近接させて整理。
- ・子育てしやすいまちづくり（ハード）を施策として追加。
- ・「人権尊重」と「多様な主体との協働」の政策を統合した上で、3つの日本一（子育て満足度、健康寿命、障がい者活躍）の次に位置づけ(障がいの有無や国籍などにかかわらず、多様性を認め合う社会を構築するという流れ)。



▲子育て満足度日本一を目指して

「元気」分野

- ・産業振興については、現行計画と同様に一次産業から二次、三次産業の順に整理。
- ・農林水産業については、生産者に内容を分かりやすく伝えるため、農業・林業・水産業ごとに振興策を整理。
- ・分野横断的な人づくりと、女性・シニア・外国人など『誰もが』活躍できる社会づくりを推進するため、「多様な働き方」と「女性活躍」の政策を統合。
- ・「芸術分野」、「スポーツ」は地域の元気創出につながるため、現行計画の『発展』から移動。



▲大分高校書道部『つなぐ 豊かな海を次世代へ』



▲応援団鳥 めじろん

- ・現行計画の「ブランド力の向上」は、あらゆる分野にまたがる取組であるため、総括的な目標として位置付け。

「未来創造」分野

- ・未来創造の全ての政策にかかわる「交通ネットワーク」を先頭に位置づけた上で、特に関連性の高い企業立地、産業集積を一体的に整理し、「広域交通ネットワークの充実が人と物の流れを活性化するとともに、企業立地・産業集積を強力に後押しする」という流れで整理。
- ・「移住・定住」、「地域づくり」をそれぞれ現行計画の『安心』、『活力』から移動し、「交通ネットワークの充実が移住・定住を促進するとともに、企業立地や産業集積が新たな人材を呼び込み、地域の担い手確保にもつながる」という流れで整理。
- ・時代の要請や潮流の変化をふまえ、「カーボンニュートラル」、「デジタル・先端技術」の政策を新設。
- ・大分県の未来を力強く創造する将来の主役であるこどもの教育の政策で新長計を締めくくる。



▲大分市地産地消ポスター展にて

大分空港への海上アクセス改善へ

～ホーバークラフトの再就航に向けて～

大分市と大分空港間の時間短縮を図るためにホーバークラフトを再就航させる事業は、着々と進められています。ホーバークラフトの1番船『Baïen』は6月16日に船体が完成し、現地英国で国による船体検査、県による検査を行ったあと大分に向けて輸送。8月24日に大分港に到着し、国による船舶検査（海上公試）を経て納入期限の7月29日から50日遅延して9月8日に納入。また2番船『Banri』は35日遅延して11月16日に納入されています。3番船『Tanso』はスケジュール通りに建造が進み、12月7日に英国を発ち、1月18日の納入期限までに納入される予定となっています。

一番船は11月8日の朝、大分空港側発着地の航走路入口付近で壁面とガードレールに衝突する事故が発生しました。訓練開始早々の操縦士による操作ミスだったわけですが、船体後方部のリフトファン（浮上用羽）周辺や走行ファンの右舷舵板が破損し、走航不能となっています。

事故後の安全対策等

操縦訓練は、2番船を使って行われていますが、事故を未然に防ぐ事が一番です。運行事業者での対応となりますが、新たに操縦士2名と整備士5名を英国グリフォン社に派遣し、約50日間の操縦訓練、約20日間の整備訓練をそれぞれ実施すると発表しています。また、英国での訓練実施後には、グリフォン社の操縦士を指導者として大分に招き、乗船訓練を実施する予定です。

今後の事故等発生時の修繕体制については、英国から技術者を招いての修繕と国内の技術者を養



▲ 1番船
Baïen



▶ 2番船
Banri

成して国内で完備できる体制を確立する必要があると感じます。

大分空港利用者の増大前提

ホーバークラフトの再就航は、大分空港利用者が250万人に増大することを見込んでの判断でした。コロナ禍によって空港利用者、観光客が減少し、観光関連部門を中心に厳しい経営を強いられました。大分空港を巡っても250万人の利用者に達する将来を見通せない状況にもなった訳ですが、大分県内のミリョク（魅力・味力）を引き立て、情報を発信しながら、来県者の増大を図りつつ、来県された皆様に大分県を好きになって帰って頂けるようにしなければなりません。

そのためには、私たち自身が大分のことをよく知り、好きだと言えるところを見つけ、そこに磨きを掛け、大分県の元気を創造していくことが必要だと感じます。

大分市側発着地 進捗率：88.7%（令和5年10月末時点）

工事の完成時期

艇庫・斜路……R5.9月【完成】
ターミナル上屋……R5.12月完成予定
駐車場……R6.2月末完成予定



ターミナル上屋整備状況



関西圏・九州各拠点と大分とのつながり ～広域交通ネットワーク研究会で議論～

東九州新幹線のルートについて

2023年1月の東九州新幹線シンポジウムで久大本線ルートを推す声が上がったことから、東九州新幹線の福岡・大分区間について日豊本線ルートと久大本線ルートの比較調査が行われました。今後の議論を活性化させるための基礎資料とするものです。

国の基本計画では起点を福岡市として、主要な経過地を大分市付近、宮崎市付近とし終点を鹿児島市としているため、具体的ルートの決定については議論の余地が残されています。今回の調査ルートとしてはそれぞれのルートで新たに整備する区間に駅を2つ設置する想定での試算が示されました。

具体的には下の図表のとおりです。

関西方面への時間短縮を重要視するのか、九州圏内の拠点都市への移動時間短縮をめざすのか

で、選択が大きく異なります。また豊予海峡ルートを視野に入れた場合の有効性や並行在来線（日豊本線又は久大本線）の利活用の変化を想定しながら九州各県間の鉄道路線の在り方を議論すべきです。

大分県広域交通ネットワーク研究会で議論

大分県新長期総合計画策定に向けて、「広域交通ネットワーク」に関して「大分県広域交通ネットワーク研究会」を設置し、豊予海峡ルートや東九州新幹線、中九州横断道路等の整備効果や検討課題等について研究を進めていくこととなりました。

研究会の委員は、大分大学経済学部の教授をはじめとする6大学の教授や経済・産業界やまちづくり、地震研究関連の法人の役員・研究員等9人で構成されており、まちの魅力を高め、人と物の流れを活性化する重要な役割について議論することを目的として2月まで議論が展開される予定です。研究会での活発な議論を期待するものです。

東九州新幹線の日豊本線/久大本線ルート（福岡～大分間）の調査について



(1) ルート設定

- ① 日豊本線沿いのルート**
博多駅⇨小倉駅間 山陽新幹線の線路を共用
小倉駅⇨大分駅間 新たに整備約110km
 - ② 久大本線沿いのルート**
博多駅⇨新鳥栖駅間 九州新幹線の線路を共用
新鳥栖駅⇨大分駅間 新たに整備約106km
- ルートは、在来線をベースに新幹線の線形を考慮した上で最短で接続するよう設定
○両ルートとも新たに整備する区間（小倉-大分間、新鳥栖-大分間）に2つ駅を経由する想定（具体的な駅名は設定していない）
○大分駅より南のルートは調査の対象外

(2) 所要時間の推計

所要時間	日豊本線ルート	久大本線ルート	現行所要時間
博多-大分	47分 ・大阪等本州方面との速達性に優れる	46分 ・西九州新幹線、九州新幹線と鳥栖で接続でき、九州内のアクセス改善に優れる	93分 (129分)
熊本-大分	79分 (132分)	56分 (89分)	127分 (193分)
長崎-大分	127分 (151分)	89分 (107分)	173分 (218分)
新大阪-大分	156分 (219分)	187分 (253分)	203分 (271分)
需要見込み	・在来特急列車が多く走っており、そのまま需要の転移が見込める ・関西方面からの空路からの転換を見込める	・長崎や熊本等九州内との移動からの転換を見込める	

○表定速度（運転区間の距離÷運転時間（停車時間含む））は210km/hと設定（九州新幹線等と同程度）
○上表は乗り換え時間を含まず目的地まで最速で結ぶ新幹線を使用した場合の時間。ただし在来線区間を含む長崎-大分間は博多-長崎間を1時間20分で結びリレーかもめ・かもめの使用を想定。
○括弧内は乗り換えに要する時間等運行状況を加味した所要時間の平均値。
※いずれのルートになっても、並行在来線の維持や地域間格差の拡大等の課題があるとともに、在来特急の継続についても不確実

お知らせ

- ◇常任委員会は「総務企画委員会」に所属。
- ◇行政や暮らしの相談をお受けしています。お気軽にご連絡下さい。
- ◇グループでの集まりなどに、お声がけ頂ければ、日程を調整の上、参加させていただきます。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費3千円です。

連絡先：097-532-4919
FAX：097-534-6598

編集後記

皆様には、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。▶さて、大分県では新大分県長期総合計画の見直しをしています。▶この総合計画に関する議論を通して、佐藤知事の思いの一端を知る機会となると思っています。▶大分県の10年後を見据えての議論において、お互いの思いを聞かせることで、皆様の笑顔が溢れる大分県の姿が想像できる計画としたいものです。